



アルゼンチン通信



第15号 2025年10月31日発行(毎月月末発行予定)

JICAシニア海外協力隊2024年1次隊:経営管理

玉東町グローバル2024年03月卒業生

鈴木功二 サンティアゴ・デル・エステロ在住

・10月の気候は、9月とほぼ同じで、朝は半袖では少し肌寒いものの、日中は40℃近くになる日もあって、気温差が大きく、体に負担が掛かります。季節としては春で、朝は初春、昼は真夏のような日が続いていたのですが、月末になって、急に冬に逆戻り、日中の最高気温が20℃以下の日が続いて、今は、暑い日が待ち遠しいです。

・10月10日(金)は、「文化の多様性を尊重する日」で祝日でした。2010年に制定された比較的新しい祝日です。本来は10月12日ですが、今年は日曜日の為、10月10日に振り返られました。以前は、「コロンブスデー」として、1492年10月12日の「アメリカ大陸発見」を祝っていましたが、先住民文化や多文化社会を尊重する意味で、名称が変更されました。

今回は、10月26日に行われた中間選挙について、報告します。

・アルゼンチンの議会は、上下院制で、下院(定員257名)は任期4年で2年ごとに半数改選、上院(定員72名)は任期6年で2年ごとに3分の1が改選されます。今年、下院は127議席、上院は24議席が改選対象でした。

・日本の衆議院(定員465名)は任期4年(半数改選等がない代わりに、解散がある。)で、参議院(定員248名)は任期6年で3年ごとに半数改選です。

・アルゼンチンの有権者は約3590万人、議員定数は合計329名なので、議員一人当たりの有権者数は10.9万人になります。その一方、日本の有権者数は約10131万人、議員定数は合計713名なので、議員一人当たりの有権者数は14.2万人ということになります。議員の定数を一割削減しようとしている日本の方が3割ほど多い、つまり、アルゼンチンの方が有権者当たりの議員数が多いことになります。条件が違うので、日本と単純比較はできませんが、アルゼンチンでは大きな建物は政府系が多く、文字通り「大きな政府」、統計上も公務員の数が多いので、それが有権者数当たりの議員数にも表れているのかと思います。

・アルゼンチンでは、日本と同じく、18歳以上が有権者ですが、法律上は義務制になっており、正当な理由なく選挙を棄権した場合は罰金等の罰則があります。(16歳と17歳は選択制で義務はありません。)義務制とはいえ、今回の投票率が68%だったことから判るように、厳格には適用されないようです。

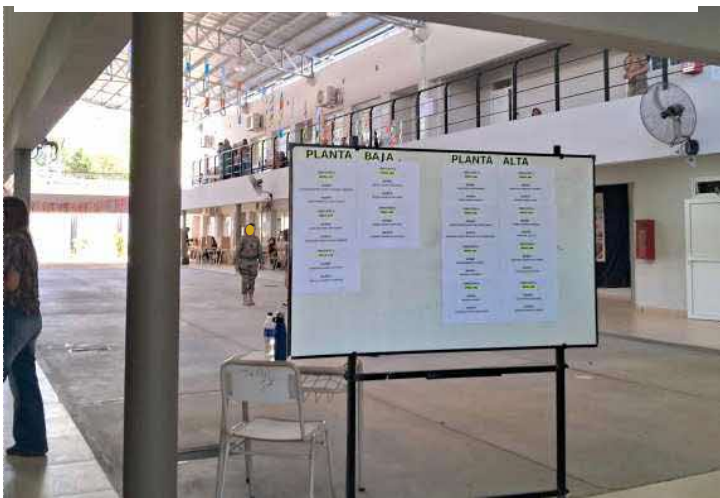
・この投票率68%は、国政選挙としては数十年ぶりの低水準だったようですが、日本の投票率は60%にも満たないので、アルゼンチンの方が政治に関心があると言えます。これは、過去に9回もデフォルト(債務不履行＝借金を返済できない)を繰り返し、近年の日本では想像できないハイパーインフレを実体験していて、政治が実生活に密接に関係していることを自覚している人が多い為と私は推測しています。

・投票前の選挙活動で大きな違いは、日本では選挙カー(候補者の名前が表示されている選挙用の車や小型バス)が、街中で候補者名を連呼して喧しいのに対して、アルゼンチンでは選挙カーがなくて静かです。しかし、ミレイ大統領が所属する政党の応援に来られた時は、交通規制がされて、いつもの散歩コースを歩けないほどでした。

・日本では、選挙期間前に設置された公設掲示板に選挙ポスターを貼ります。アルゼンチンには公設掲示板はなく、ポスターが電信柱やバス停等に貼られています。また、候補者名が書かれた横断幕があったり、道路沿いの壁にペンキで候補者名が書かれたりしています。壁にペンキで候補者名を書くと、消す作業が大変だと私は思ったのですが、選挙が終わっても消さずにそのまま放置するようで、景観はあまり気にならないようです。

- ・日本では、選挙前に「投票所入場券」のようなものが各有権者に郵送されてきますが、アルゼンチンでは、そのような郵送物はありません。DNI(身分証明書、日本のマイナンバーカードに相当する)が「投票所入場券」の代わりになり、DNIの番号を使って、自分が行く投票所を調べます。このDNIは、各種メンバーカードや献血カードの代わりになる＝DNI一枚で済むので、何枚も持つ必要がなく便利です。
- ・選挙当日の投票の流れは、アルゼンチンと日本でほぼ同じですが、日本では、候補者名や政党名を書くのに対して、アルゼンチンではXを記入する等、細かな違いはあります。Xを記入の方が簡単で、有効票になる確率は日本よりも高いような気がします。私は、地元の二か所の投票所(小学校)に、見学に行ったのですが、銃を持った兵士や警察がいるぐらいで、日本の投票所と大きな違いはありませんでした。
- ・さて、その中間選挙の結果ですが、ミレイ大統領が率いる少数与党が、得票率41%で勝利、下院は37議席から64議席へ、上院は7議席から13議席へと大幅に増えました。非改選の議席と合わせて、下院で3分の1以上の議席を得たことが大きいようで、議会が可決した法案に対して、大統領が行使する拒否権が覆されない、つまり大統領の意向を反映されるために必要な議席数を確保したことで、「小さな政府」路線の大統領の政策が推進しやすくなりました。
- ・ミレイ政権は、政府支出の削減、公務員の削減、経済の規制緩和等、有権者が必ずしも歓迎しない政策を行ってきており、この痛みを伴う経済改革に対する民意が得られたこととなります。
- ・民意を反映する最も判り易い手段は選挙であり、日本もアルゼンチン並みに投票率が上がってほしいと思うのですが、その為には、投票し易い仕組みが必要です。例えば、私のように、アルゼンチンの地方都市に住んでいると、時間と金があれば、在外選挙に投票(海外から日本の国政選挙に投票)することは可能ですが、実際には難しいのが現状です。投票率を上げる為には、電子投票等の投票し易い仕組みが必要だと思います。

【投票所(学校)ロ入口、ボードに掲示されたリストを見て、自分の投票ブースを見つける。】



【ある投票ブース、国政選挙用と州の選挙用の二つの段ボール製の投票箱がある。】



【壁にペンキで書かれた候補者名、選挙が終わっても消さずにこのまま。】



【このような投票用紙にXマークを書いて、投票する。日本の感覚では、Vマークを書いてしまいそう。】



(スペイン語版を同時配信)

鈴木功二